

村上地域における飼料用米「新潟次郎」の多収穫栽培ごよみ



目標の収量構成と品質	
目標収量	700kg/10a
穂数	450本/㎡
1穂粒数	85粒
㎡当り粒数	38,000粒
登熟歩合	82%
千粒重	22.3g

- ・強稈・多収の極早生品種
- ・いもち病・紋枯病対策とカメムシ防除は必須です！

栽培のポイント

- 健苗育成** : ①浸種開始時水温10℃以上を確保し、発芽を揃える
②育苗日数は20日程度(加温20日、無加温25日)
③播種は4月15日以降、播種量は乾籾170g/箱(出芽を揃えるためには、加温出芽が望ましい)
- 過剰生育防止** : ①1株苗数3~4本植えとし、茎質向上
②栽植密度は茎数早期確保のため60~70株/坪
③基肥窒素量は5~7kg/10a程度
④中干し・溝切りを徹底し、根の健全化と茎質向上
- 登熟向上** : ①1回目の穂肥時期が幼穂形成期であるため、幼穂確認と遅れない穂肥
②出穂前後25日間は飽水管理とし、田面を乾かさず地力窒素の発現を促進
③落水は出穂25日以降とし、登熟向上
- 病虫害防除** : ①いもち病の箱処理剤使用
②いもち病とカメムシ類の同時防除
③紋枯病の発生量に応じた適期防除
- 胴割れ発生防止** : ①刈り遅れしない適期収穫
②刈取水分に応じて乾燥温度を調節
- 土づくり** : ①稲わらの秋すき込み
②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

基本は「適正生育量の確保」と「登熟の良い稲づくり」

